

株主メモ

事業年度

4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主確定日

3月31日

中間配当金受領株主確定日

9月30日

定時株主総会

毎年6月

単元株式数

100株

株主名簿管理人

特別口座 口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

TEL0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所

東京証券取引所・大阪証券取引所・

名古屋証券取引所 各第1部

公告の方法

電子公告により行う

公告掲載URL

<http://www.daiichisankyo.co.jp/>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします)

お知らせ

1. 株券電子化によるご注意

(1)株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

(2)特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。

(3)配当金の口座振込のご指定につきましては、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなりました。従来同封いたしておりました当社専用の「配当金振込指定書」は今回から同封を取りやめております。振込指定のお手続きにつきましては、詳しくは各口座管理機関にお問い合わせください。

(4)未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

2. 配当金計算書について

本年から、配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取りになれる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

IRメールマガジンにぜひご登録を!

当社では、最新のIR情報を株主・投資家の皆様へ直接メールでお届けしています。

当社をよりご理解いただくためにも、ぜひともご登録ください。

URL

<http://www.daiichisankyo.co.jp>

ご登録ください!!



Daiichi-Sankyo

株主・投資家の皆様へ 株主通信 Vol.5

2009年3月期 決算号 2008年4月1日～2009年3月31日

第一三共株式会社

〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号

<http://www.daiichisankyo.co.jp/>

〈お問い合わせ先〉コーポレートコミュニケーション部 TEL.03-6225-1126 FAX.03-6225-1132



証券コード：4568

第一三共株式会社



つづいているのは、希望です。

私たちは、人間をこよなく愛する製薬会社です。
 人間といういのちの輝き、いのちのすこやかさを愛し、そのためになることなら、
 どんな努力も惜しまない製薬会社です。
 私たちは、どこよりも先進の集団でありたいと思います。
 すぐれた研究力と開発力をみがき、つくれなかった薬をつくり、治せなかった病を治す。
 そのことに限りなく貢献できる会社になろうと思います。
 私たちは、どこよりも誠実な集団でありたいとも思います。
 医薬品づくりは、いのちにかかわる仕事。そのことを胸深く刻みつつ、誰からも、
 心から頼られるパートナーでありたいと思うのです。
 人間の、かけがえのない一日一日をしっかりと守ること。
 思いがけなく待ち受ける病に、すばやく立ち向かうこと。
 私たち第一三共がつづいているものは、医薬品であると同時に、すべてのいのちを
 まばゆく照らす「希望」だと思うのです。

目次

ごあいさつ.....	P2
特集：Global Pharma Innovatorへの布石.....	P3～8
連結決算の状況.....	P9～10
連結財務諸表の概要.....	P11～12
次期の見通し.....	P13
ズームアップ.....	P14～16
企業インフォメーション.....	P17～18

ごあいさつ

“Global Pharma Innovator= グローバル創薬型企業の実現”を目指して



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこと
 とお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第一三共グループの企業理念は、「革新的な医薬品を継続的に創出し、提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」ことです。そして、この企業理念に基づき、2015年ビジョンである「グローバル創薬型企業 (Global Pharma Innovator) の実現」に向けてさまざまな経営施策を推進しているところです。

医薬品市場を取り巻く環境は、昨今の経済危機に加え、医療費抑制策や承認基準の厳格化などによる新薬市場の成長鈍化、先進諸国における後発品シェア拡大など、厳しい状況が続いております。当社はこのような環境変化に一早く対応して先進国のみならず、高い成長を遂げている新興国市場、あるいは新薬のみならず特許が切れた製品による事業展開をも視野に入れて、ランバクシー社をグループに迎え入れました。

現在、ランバクシー社がインド国内に持つ一部の工場に対し、米国への輸入禁止措置がとられ、加えてAIP (Application Integrity Policy) 発動という事態を招いております。FDA (米国食品医薬品庁) の求めるデータの基準を満たしていないという事実に対しては、大変重く受け止めており、現在、当社経営陣の指導のもと、ランバクシー社あるいは外部の専門家を含めた対策チームにて全力で問題解決に取り組んでおります。

先般、真の意味でのグローバル企業への飛躍の一歩として、ランバクシー社の新たな経営体制をスタートさせました。成熟した先進国市場と急速な成長を続ける新興国市場双方での持続的な成長に向け、「複眼経営」を推進していく所存です。

今後とも株主・投資家の皆様のご支援をお願い申し上げます。

代表取締役社長兼CEO

庄田 隆

特集：Global Pharma Innovatorへの布石



第一三共グループの企業理念は、「革新的な医薬品を継続的に創出し、提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」ことです。

そして、この企業理念に基づき、2015年ビジョンである「グローバル創薬型企業(Global Pharma Innovator)の実現」に向けてさまざまな経営施策を推進しているところです。

Global グローバル

事業エリア拡大への挑戦

Pharma ファーマ

アンメットメディカル(未充足医療)ニーズへの挑戦

Innovator イノベーター

サイエンス・技術のイノベーション、
新たなビジネスモデル構築への挑戦

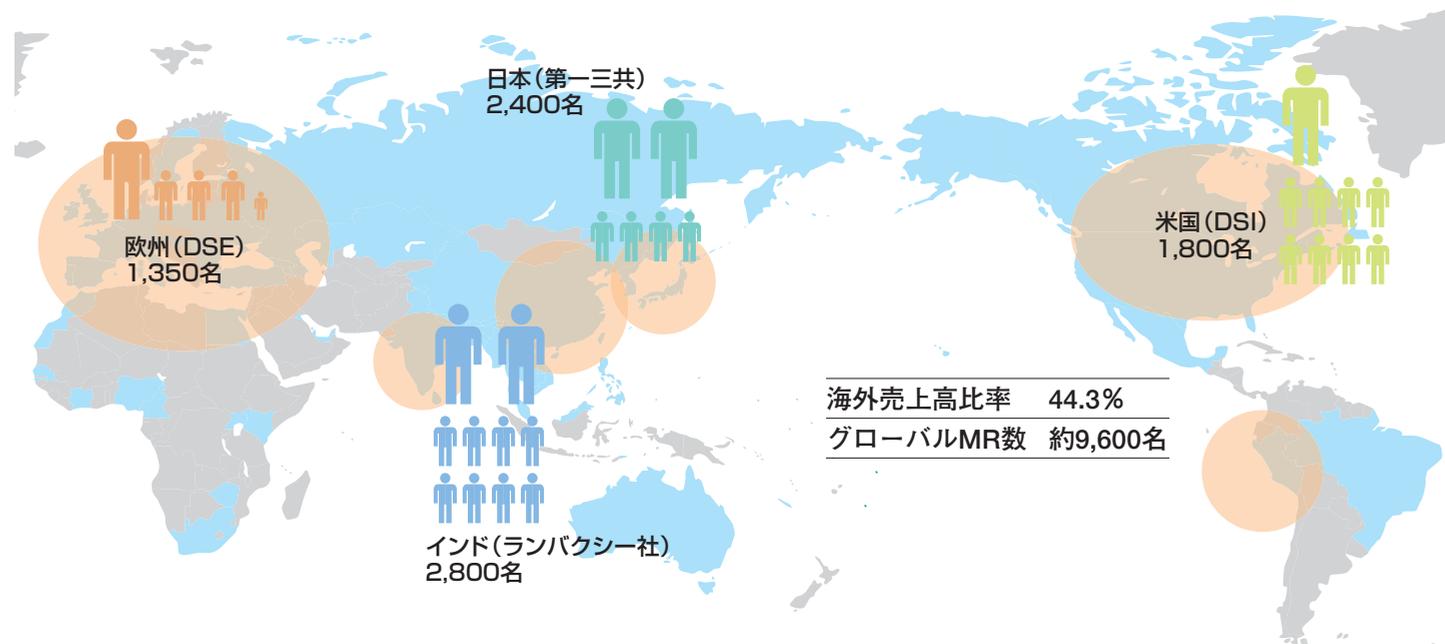
Global：事業エリア拡大への挑戦ー営業

>>> グローバル営業基盤の拡充

2007年度を起点とする中期経営計画においては、今後の成長に向けた「基盤の拡充」がテーマでした。2008年度中には米国DSI(第一三共INC.)でMR(医薬情報担当者)が1,800名体制となり、単独で現有製品並びに承認が待たれる期待の新製品エフィエントを販売していく体制が整いました。また、欧州DSE(第一三共ヨーロッパGmbH)でも新たにトルコ、アイルランドを加えた12か国に営業拠点を拡充し、MRも800名から1,350名へと大幅に増強いたしました。

高血圧領域を中心とした継続的な成長に加え、血栓症領域への新製品の投入により、2015年には第一三共グループは欧米において、循環器領域のトップクラスの企業を目指しております。

グローバル展開



基盤の拡充とオルメサルタンの拡大

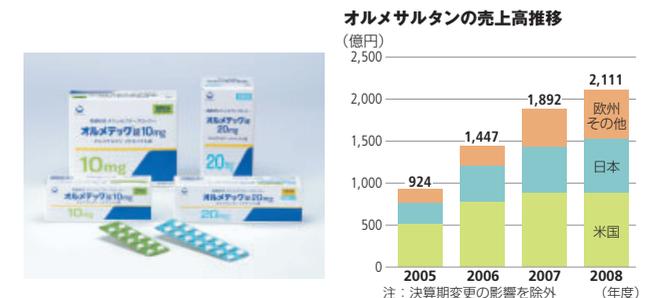
さらに、第一三共グループのグローバルリーチは、ランバクシー社のグループ入りにより、飛躍的に拡大しました。第一三共が未参入であったインド、アフリカ、西アジア、東欧などを含め、56か国に拠点を保有し、先進国市場はもちろん、新興国市場に対しても幅広いネットワークを広げております。この営業網と製品群を組み合わせることにより、ランバクシー社を含めた第一三共グループは、世界中の患者さんに対して、その地域ごとの医療ニーズに合致した医薬品を提供することが可能になります。その具体例として、ランバクシー社がインドにおいて当社の主力製品である高血圧症治療剤オルメサルタンを、「オルバンス」という製品名でこの4月より販売を開始しました。

>>> グローバル製品オルメサルタンも順調に拡大

現在の第一三共グループの成長ドライバーは、グローバルに自社販売を行っている高血圧症治療剤オルメサルタンです。2002年5月に米国で最初に発売されて以来、降圧効果の強さに加えて、優れた臓器保護作用を期待できることから世界中で売上規模が拡大しており、2008年度には当初目標の2,000億円を超える売上高2,111億円を達成しました。現在では、世界56か国で販売されています。

高血圧症はいろいろな要因が複雑に絡み合っているため、複数の異なる成分の高血圧症治療剤を1剤に配合した「配合剤」によって、より高い治療効果が期待できます。1剤で血圧を十分にコントロールできない患者さんが過半数を占める欧米では、むしろ配合剤の処方主流になりつつあり、当社でもオルメサルタンをベースに利尿剤(ヒドロクロロチアジド)やカルシウム拮抗剤(アムロジピン)との配合剤をすでに販売しています。

さらに日本でも自社開発のカルシウム拮抗剤「カルブロック」との配合剤CS-866AZを2008年12月に承認申請している他、欧米では3剤合剤の開発にも取り組んでおります。配合剤開発は、患者さんに新たな治療の選択肢を提供するとともに、オルメサルタンの製品ライフサイクルを強化し、価値最大化のための有効な手段となります。オルメサルタン全体で今後のさらなる売上拡大を目指していきます。



特集：Global Pharma Innovatorへの布石

Pharma：アンメットメディカルニーズへの挑戦－エフィエント、エドキサバン

第一三共グループは、世界の製薬業界の中でも、特に研究開発に重点を置いた投資を行っており、2008年度は1,845億円（前期比12.9%増）、売上高に対する研究開発費の比率は21.9%と高い水準となりました。大型化を期待する新薬の開発が本格化してきたことや開発パイプライン強化のための導入費用が増加したことなどが背景にあります。当社では売上高比率20%程度を目処に効率的な資源投入を行うべく、重点疾患領域を定め、開発品目（プロジェクト）を厳格に優先付けしています。

◆ 優先プロジェクト

血栓症に関する薬剤		高血圧に関する薬剤	骨に関する薬剤
種類	動脈系血栓に作用 (抗血小板剤)	3種類の薬剤を配合した高血圧症 治療剤	骨関連疾患の抗体医薬
一般名	プラスグレル (製品名：エフィエント)	CS-8635	デノスマブ
開発ステージ	米国：申請中 欧州：3月発売 日本：フェーズ2	日米欧亜：フェーズ3	米欧：フェーズ3 日本：フェーズ3 〈欧米では米アムジェン社が開発中〉

Pharma アンメットメディカルニーズ*への挑戦



経営資源を医薬品事業に集中し、革新的医薬品を継続的に創出・提供する企業

*アンメットメディカルニーズとは、医療満足度が不十分であったり、治療法が確立されていない疾患に対する医療ニーズ。

研究開発の重点疾患領域

重点疾患領域			
血栓症	癌	糖尿病	自己免疫疾患/ 関節リウマチ
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 高いアンメットメディカルニーズ* ▶ 最先端の科学・技術によって、画期的な治療効果と高い安全性を有する新しい製品の創出を目指す 			
フランチャイズ領域			
高血圧	脂質異常症	感染症	
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 当社製品（オルメテック、クラビット、メパロチンなど）を含む優れた治療薬の貢献により、相対的に医療満足度が高くなっている疾患領域 ▶ 配合剤、剤形追加などを進め、より使いやすく、個々の患者さんのニーズに応えられる製品の創出を目指す 			

>>> 待望の新薬エフィエントを欧州で販売開始

抗血小板剤「エフィエント*（プラスグレル）」は、経皮的冠動脈形成術（PCI）を受けている急性冠症候群（ACS）患者への新しい治療法として開発され、現在、医療現場でよく使われている標準治療薬よりも、「早く」、「強く」、「安定した」薬効を持っている特徴があります。ACS患者約13,600名余を対象に行った比較試験（TRITON）で、クロピドグレル（商品名：プラビックス）に対しての有用性が証明されており、欧州では、2009年3月より英国及びドイツで販売が開始されました。また、米国においては2009年2月3日に開催されたFDA（米国食品医薬品庁）の諮問委員会が満場一致で承

>>> エドキサバン、世界46か国でのフェーズ3試験を開始

「エドキサバン（DU-176b）」は、エフィエントと並ぶ当社の最優先プロジェクトとして、その進捗に大きな注目が寄せられている経口抗Xa剤です。「キサバン」は経口抗Xa剤を表わしており、「エド」は「江戸」に由来します。当社発・東京発・日本発という思いを込めた名前となりました。

「エドキサバン」は、血液凝固に関与する因子の中で特に重要とされる第10因子（Xa因子）の働きを抑制し、血栓が形成されるのを防ぎます。欧州ですでに発売されているエフィエントと同様に、血栓による疾病に対する薬剤ですが、エフィエントが動脈硬化などが原因で起こる動脈系血栓による疾病に有効であるのに対し、「エドキサバン」は血液の流れが滞留したところにある静脈系の血栓による疾病に効果が期待されます。具体的には、不整脈などにより血液の流れが悪くなってできた血栓が、血液循環とともに脳に至り、脳の血管を詰まらせることによっておきる脳塞栓や、長時間の着座姿勢で血流が悪くなり、そこでできた血栓が肺に飛んで血管を詰ま

認を勧告し、現在FDAからの回答を待っている状況です。

経皮的冠動脈形成術 (PCI : Percutaneous Coronary Intervention)

PCIは、胸を開いて手術を行うことなく、カテーテルを用いて心臓の血管に対する治療を行う方法です。治療対象は、薬物治療だけでは十分な症状の改善が得られない狭心症や心筋梗塞などの緊急な治療を必要とする患者さんです。

*エフィエントについては、ズームアップ①（14ページ）で詳しく紹介しております

らせる肺塞栓症などです。

現在、心房細動による血栓塞栓症の予防効果の適応取得を目指すフェーズ3試験「EngageAF（エンゲージAF）」が、世界46か国、16,500例規模で2008年11月に開始され、順調に進んでいます。また、日本では、術後血栓塞栓症予防の適応取得を目指し、フェーズ3試験を2009年3月に開始しております。これについては2010年に申請できる見通しで、国内での経口抗Xa剤の一番手として市場に投入できることを期待しています。

この他、2008年6月にドイツのバイオベンチャーU3ファーマAG（現U3ファーマGmbH）を買収、2008年12月に米国アーキュール社と研究開発提携するなど、癌領域の強化を図っております。また、国内においてフェーズ3試験の投薬が終了した抗インフルエンザ薬CS-8958は2009年度中の承認申請を目指しております。

特集：Global Pharma Innovatorへの布石

開発パイプラインの状況 (2009年5月現在)

第一三共は、継続的な成長の源泉となる研究開発について、循環器、糖代謝、感染症、癌、免疫・アレルギー、骨・関節などの領域で、以下のプロジェクトを推進しております。

	主な既存品*	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	承認申請
循環器	Mevalotin Benicar/Olmetec Azor/Sevikar Welchol オルメテック カルブロック アーチスト メパロチン クレメジン ハンブ、リパロ サンリズム、ペプリコール	DB-772d (米/欧) (経口抗Xa剤)	DU-176b (米/欧) (エドキサパン/静脈血栓塞栓/経口抗Xa剤) ☆CS-866CMB (日) (オルメサルタン メドキシミルと ヒドロクロロチアジドの配合剤) CS-747 (日) (プラスグレレル/抗血小板剤)	☆CS-747 (米/欧) (プラスグレレル/ACS-MM/抗血小板剤) ☆CS-866DM (日) (オルメサルタン メドキシミル/ 糖尿病性腎症) DU-176b (米/欧/日/亜) (エドキサパン/心房細動/経口抗Xa剤) DU-176b (日) (エドキサパン/静脈血栓塞栓/経口抗Xa剤) ☆CS-8635 (米/欧) (オルメサルタン メドキシミル、ベシル酸アム ロジピン、ヒドロクロロチアジドの配合剤)	CS-747 (米) (プラスグレレル/ACS-PCI/ 抗血小板剤) ☆CS-866AZ (日) (オルメサルタン メドキシミルと アゼルニジピン配合剤)
糖代謝	Welchol ファスティック	CS-1036 (日/亜) (糖吸収阻害剤)	CS-011 (日) (リボグリタゾン/インスリン抵抗性 改善剤)	CS-011 (米/欧) (リボグリタゾン/インスリン抵抗性 改善剤)	
感染症	Levaquin/Tavanic Banan クラビット	CS-8958 (米/欧) (抗インフルエンザ/ピオタ社と共同開発)		☆レボフロキサシン注 (日) (ニューキノロン剤) CS-8958 (日) (抗インフルエンザ)	
癌	トボテシン クレスチン	U3-1287 (米)(抗HER3抗体) CS-1008 (日)(Tigatuzumab/抗DR5抗体)	CS-1008 (米)(抗DR5抗体) CS-7017 (米)(PPARγ作動薬) DE-766 (日)(ニモズマブ/抗EGFR抗体) ARQ197 (米/欧)(c-Met阻害剤)		
免疫・アレルギー	シルテック	CS-0777 (米/欧)(免疫抑制剤)	SUN 13834 (米)(キマーゼ阻害剤)		
骨・関節	ロキソニン モービック			AMG162 (日) (デノスマブ/癌骨転移、骨粗鬆症/ 抗RANKL抗体) ☆CS-600G (日) (ロキソプロフェン ナトリウム/ゲル製剤)	
その他	Venofor Evoxac オムニパーク オムニスキャン フェロン ユリーフ		SUN11031 (米/欧) (ヒトグレリン/カヘキシア) ☆DD-723-B (日) (ペルフルプタン/超音波造影剤)	SUN11031 (日) (ヒトグレリン/神経性食欲不振症) SUN Y7017 (日) (メマンチン塩酸塩/軽度・中等度及び 高度アルツハイマー型認知症)	☆DL-8234 (日) (フェロン効力/C型慢性肝炎/ リハビリ併用療法) KMD-3213 (中国) (シロドソン/排尿障害治療剤)

*ローマ字表記は海外での商品名、カタカナ表記は日本での商品名

☆効能追加、剤形追加等

フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	承認申請
<p>ご参考</p> <p>少数の健康人を対象とした安全性、薬物の吸収、分布、代謝、排泄等を検討する試験。</p>	<p>対象疾患の少数の患者において安全性を重点にしつつ、用法、用量の検討、有効性を検討する試験。</p>	<p>拡大臨床試験といわれ、数百から数千人の患者を対象に有効性と安全性の確認が行われ、有用性を確認する試験。</p>	<p>有用性が確認されたものだけが新薬の製造販売承認の申請がなされます。</p>

Innovator：新たなビジネスモデル構築への挑戦

これまでの第一三共グループは先進国市場において、特許で保護された製品の研究開発・製造・販売を主体としてきました。革新的新薬を創製し、ブロックバスター*に育て上げることが研究開発型製薬企業の従来型ビジネスモデルでしたが、近年、ブロックバスターの特許切れや、欧州を中心とする医療経済性を重視する動きなどにより、先進国市場全体の成長は鈍化しています。

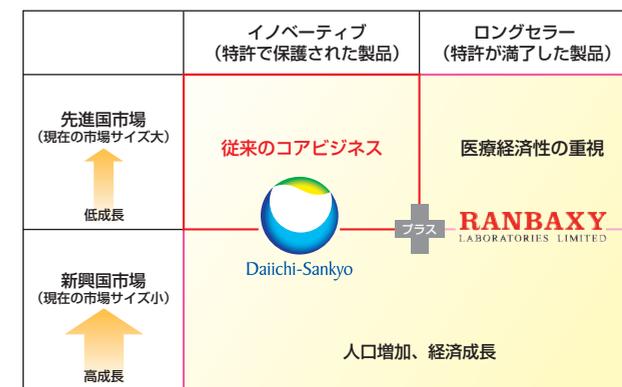
一方で、BRICsに代表される新興国市場は、過去5年にわたり二桁の経済成長を遂げています。今後も経済の成熟化を背景とした、より良い医療を求める動きや、人口の増加などにより、市場がますます拡大していくことが予想されます。また、知的財産を取り巻く環境整備も進みつつあり、将来は特許で保護された製品が販売される市場になることも想定されます。

第一三共グループはこのような市場環境を背景に、先進国市場と新興国市場の双方をカバーし、あらゆる市場の変化や二

ーズに対応し得る「複眼経営、ハイブリッド経営」により、持続的な成長を図っていきたくと考えています。

* ブロックバスターとは画期的新薬で、かつ、1,000億円以上を売上げている医薬品

複眼経営によるハイブリッド・ビジネスモデル



》》ランバクシー社パオンタサヒブ工場に対し、FDA(米国食品医薬品庁)がAIPを発動

ランバクシー社のインド国内の生産拠点であるパオンタサヒブとデワスの2工場に対して、2008年9月にFDAから米国GMP(医薬品などの製造管理及び品質管理基準)違反の警告状が出され、この2工場からの米国向け製品の輸入禁止措置が取られています。また、2009年2月にFDAからパオンタサヒブ工場に対して、FDAが申請データの信憑性や信頼性に疑問を持つ場合に、当該データが得られた施設に対して承認再申請もしくは承認取り下げなどを求める措置AIP(Application Integrity Policy)が発動されました。

これらの措置は、第一三共グループに重大な影響を及ぼしかねない事象であり、当社経営陣の指導のもと、ランバクシー社の経営陣、外部の専門家を含めた対策チームを立ち上げ、全力で問題解決に取り組んでおります。

現在、本件の解決に向けFDAとの協議を進めており、適切な対応に努めております。

連結決算の状況

2009年3月期の業績及び概況

売上高 ▶ **8,421億円** (前期比 4.3% 減)

当期に子会社化したランバクシー社の売上高の寄与はあったものの、為替変動の影響に加え、前期の実績に欧州子会社の決算期変更による売上高(2007年1月から3月までの売上高141億円)が加算されていることなどの要因により減収となりました。

◇国内医療用医薬品事業

売上高 ▶ **4,167億円** (前期比 4.7% 減)

オルメテック、カルブロック、ユリーフ、ロキソニンブランドなどが当該市場の伸長を上回って拡大したものの、一部提携品の販売移管や薬価改定の影響に加え、メバロチン、クラビットなどの売上げが減少しました。



ロキソニンテープ

ユリーフ

国内主要医療用医薬品売上高

(単位:億円)

	2007年度	2008年度	前同増減
オルメテック 【高血圧症治療剤】	552	644	92
メバロチン 【高コレステロール血症治療剤】	616	507	△109
クラビット 【合成抗菌剤】	474	430	△44
ロキソニン 【消炎鎮痛解熱剤】	336	387	51
オムニパーク 【造影剤】	312	283	△28
アーチスト 【高血圧症治療剤】	211	219	8

◇海外医療用医薬品事業

売上高 ▶ **3,733億円** (前期比 5.9% 増)

北米の売上高 ▶ **1,908億円** (前期比 7.2% 増)

円高傾向に伴う為替の影響があったものの、ベニカー、ベニカーHCT、エイゾール、2型糖尿病への適応追加を取得した高コレステロール血症治療剤ウェルコール、貧血治療剤ヴェノファーなどが引き続き伸長したため、増収となりました。

欧州の売上高 ▶ **774億円** (前期比 0.7% 減)

決算期変更の影響額を除いた実質では、オルメテック、オルメテックプラス、セビカー、骨粗鬆症治療剤エピスタの寄与により、前期比21.3%の伸びとなりました。



セビカー

インド及びその他の売上高 ▶ **441億円** (前期比 69.4% 増)

当期に新規連結したランバクシー社のインドなどにおける売上高211億円が寄与しました。その他事業のグループ外への自立化による減少要素を上回って、オルメサルタン、レボフロキサシンの成長が業績を牽引しました。

グローバル製品売上高

(単位:億円)

	2007年度	2008年度	前同増減
オルメサルタン※ 【高血圧症治療剤】	1,956	2,111	156
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	1,087	977	△111
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	765	608	△156

※オルメテック、ベニカー、ベニカーHCT、エイゾール、オルメテックプラス、セビカー

輸出売上高及びロイヤリティ収入 ▶ **609億円** (前期比 19.3% 減)

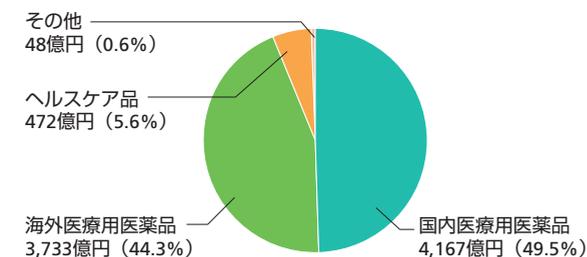
円高の影響や合成抗菌剤レボフロキサシンの輸出が減少しました。

◇ヘルスケア事業

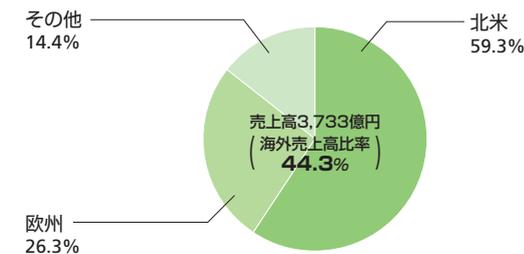
売上高 ▶ **472億円** (前期比 6.2% 減)

新製品の寄与があったものの消費低迷の影響を受け、感冒薬、胃腸薬市場が縮小したことに加え、しみ(肝斑に限る)改善薬トランシーノの売上げが伸び悩みました。

事業別売上高構成比



海外売上高構成比



営業利益 ▶ **888億円** (前期比 43.3% 減)

売上高の減少に加え、欧米における新製品の発売に向けた営業基盤の強化や販売促進費などが拡大しました。また、癌領域強化を目的とした導入費用の増加に加え、開発プロジェクトの進展などにより研究開発費は1,845億円(前期比12.9%増)、売上高研究開発費比率21.9%と拡大したことから減益となりました。

経常利益 ▶ **551億円** (前期比 67.4% 減)

運用資産の減少により営業外収益は減少しました。またランバクシー社新規連結により、為替のデリバティブ評価損並びに為替差損などの営業外費用が前期を大きく上回りました。

当期純損失 ▶ **2,154億円** (前期純利益 976億円)

ランバクシー社に係るのれんを特別損失として3,513億円償却しました。

主要経営指標

	2007年度	2008年度
1株当たり当期純利益(△損失)	135.35円	△304.22円
1株当たり純資産額	1,730.09円	1,226.04円
1株当たり配当金(年間配当)	70.00円	80.00円
配当性向	51.7%	-
自己資本比率	83.6%	57.7%
純資産配当率(DOE)	4.0%	5.4%
自己資本当期純利益率(ROE)	7.8%	△20.5%

連結財務諸表の概要

連結貸借対照表 (要旨)

科目/期別	当期		前期	
	(2009年3月31日現在)		(2008年3月31日現在)	
● 資産の部				
流動資産	7,835	9,265		
現金及び預金	765	473		
受取手形及び売掛金	1,955	1,669		
有価証券	2,354	5,268		
たな卸資産	1,394	981		
その他	1,375	875		
貸倒引当金	△10	△2		
固定資産	7,110	5,613		
有形固定資産	2,501	2,212		
建物及び構築物	1,327	1,368		
その他	1,173	844		
無形固定資産	1,925	910		
のれん	773	154		
その他	1,151	756		
投資その他の資産	2,684	2,490		
投資有価証券	1,537	2,160		
その他	1,150	333		
貸倒引当金	△3	△3		
資産合計	14,945	14,878		
● 負債の部				
流動負債	5,085	1,945		
支払手形及び買掛金	594	464		
短期借入金	2,643	0		
未払法人税等	82	186		
その他	1,765	1,293		
固定負債	974	488		
転換社債型新株予約権付社債	470	—		
長期借入金	158	0		
繰延税金負債	54	267		
退職給付引当金	105	67		
その他	184	153		
負債合計	6,059	2,433		
● 純資産の部				
株主資本	8,944	12,116		
資本金	500	500		
資本剰余金	1,051	1,798		
利益剰余金	7,538	10,251		
自己株式	△145	△434		
評価・換算差額等	△314	322		
新株予約権	23	2		
少数株主持分	231	3		
純資産合計	8,886	12,445		
負債・純資産合計	14,945	14,878		

連結損益計算書 (要旨)

科目/期別	当期		前期	
	(2009年3月31日現在)		(2008年3月31日現在)	
売上高	8,421	8,801		
売上原価	2,143	2,345		
売上総利益	6,277	6,455		
販売費及び一般管理費	5,388	4,887		
営業利益	888	1,568		
営業外収益	122	169		
営業外費用	459	47		
経常利益	551	1,690		
特別利益	37	161		
特別損失	3,672	183		
税金等調整前当期純利益(△損失)	△3,082	1,668		
法人税、住民税及び事業税	292	523		
法人税等調整額	△1,084	167		
少数株主利益(△損失)	△135	0		
当期純利益(△損失)	△2,154	976		

連結株主資本等変動計算書 (要旨) 当期(自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)

科目	株主資本					評価・換算差額等合計	新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
前期末残高	500	1,798	10,251	△434	12,116	322	2	3	12,445
在外子会社の会計処理変更に伴う増減			△13		△13				△13
当期の変動額									
剰余金の配当			△533		△533				△533
当期純利益(△損失)			△2,154		△2,154				△2,154
自己株式の取得				△458	△458				△458
自己株式の処分				0	0				0
自己株式の消却				△746	—				—
持分法の適用範囲の変動			△11		△11				△11
株主資本以外の項目の当期の変動額						△636	21	227	△387
当期の変動額合計	—	△746	△2,699	288	△3,157	△636	21	227	△3,545
当期末残高	500	1,051	7,538	△145	8,944	△314	23	231	8,886

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科目/期別	当期		前期	
	(2009年3月31日現在)		(2008年3月31日現在)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	783	666		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,138	△494		
財務活動によるキャッシュ・フロー	980	△828		
現金及び現金同等物に係る換算差額	△291	△47		
現金及び現金同等物の増減額	△2,665	△704		
現金及び現金同等物の期首残高	4,443	5,132		
連結範囲の変更による増減額	△0	5		
非連結子会社との合併に伴う増加額	—	10		
現金及び現金同等物の期末残高	1,777	4,443		

次期の見通し

2010年3月期 連結業績予想

売上高 ▶ **9,600億円** (1,179億円 増加)
(前期比 14.0% 増加)

営業利益 ▶ **960億円** (72億円 増加)
(前期比 8.0% 増加)

経常利益 ▶ **690億円** (139億円 増加)
(前期比 25.1% 増加)

当期純利益 ▶ **400億円** (2,554億円 増加)
(一)

2009年度は、国内の薬価改定が予想されないものの、世界的な医療費抑制策の浸透や経済危機を背景とした新薬市場の成長鈍化などにより、世界的に厳しい市場環境が続く見込みです。

また、円高基調が持続している状況を踏まえ、為替レートは、1ドル95円、1ユーロ120円を前提としており、当期の実勢レートと比較すると約320億円の減収要因となります。

このような外部環境下、当社グループは、オルメサルタンの持続的成長を柱とした既存主力品の一層の伸長、新製品エフィエントの寄与、さらに2008年度第4四半期より連結しているランバクシー社が通期で寄与することなどにより、売上高は増収となる見込みです。

利益面では、エフィエント上市に係る販売促進費の増加や、主要開発プロジェクトの進展に伴う研究開発費の増加などがあるものの、売上高の増加や、損益構造改善に向けた取り組みを強化することなどにより営業利益、経常利益での増益を見込んでおります。

また、純利益については、2008年度にランバクシー社に係るのれんの一時償却として特別損失を計上したことにより当

期純損失が2,154億円となりましたが、2009年度は400億円の黒字を見込んでおります。

利益配分に関する基本方針

当社は、グループの事業活動から得られた成果の配分を最も重要な経営課題の一つとして位置付けており、業績や資本効率の観点を反映した利益還元を重視するとともに、今後の成長戦略展開に備えた内部留保の充実などを総合的に勘案し、利益配分を決定してまいります。

その中で2007年度から2009年度までの3年間で創出する純利益相当額を全て配当と自己株式の取得に充当することを方針としております。

配当金について

2008年度については、ランバクシー社に係るのれんの一時償却として特別損失を計上したことに伴い、当期純損失が2,154億円となりましたが、前期比10円増配となる1株当たり年80円の配当を行いました。

なお、15百万株(457億円)の自己株式取得も実施しております。

また、2009年度の配当につきましては、業績予想並びに今後の戦略投資や借入金返済などの資金計画を勘案し、1株当たり年60円の配当を予定しております。

1株当たりの配当金

	中間	年間
2007年度	35円	70円
2008年度	40円	80円
2009年度	30円(予定)	60円(予定)

ズームアップ ①

話題の新製品 抗血小板剤「エフィエント」ってどういう薬？

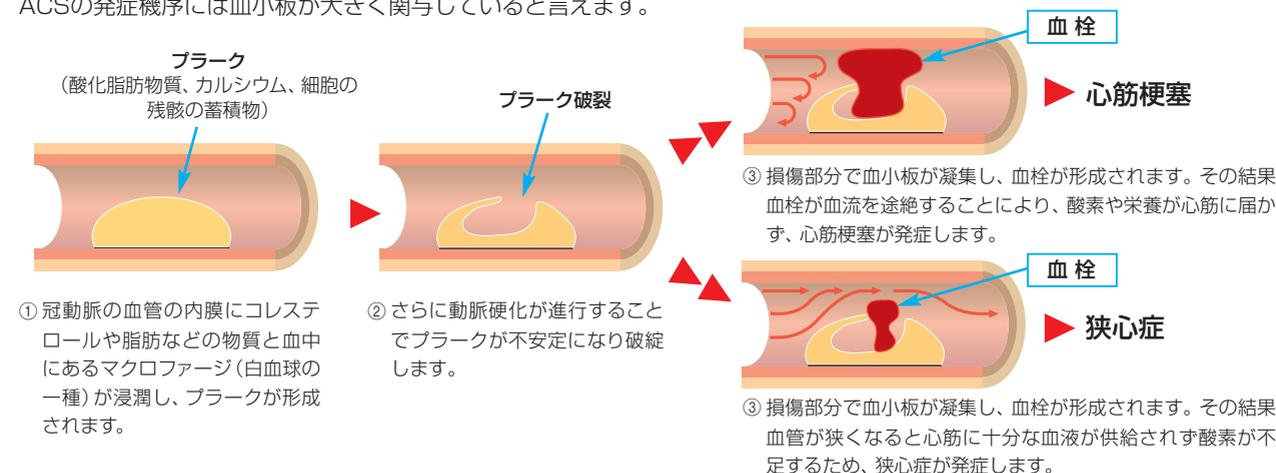
エフィエントは、カテーテルを用いて心臓の血管にステント留置治療を行った急性冠症候群の患者さんに対して「心血管死」、「非致死性心臓発作」などのイベント発症を抑える薬として欧州にて3月に発売されました。

急性冠症候群(ACS: acute coronary syndrome)とは、コレステロールや蓄積した脂肪によって冠動脈(心筋に酸素や栄養を送りこむ役割を果たしている動脈)の狭窄または閉塞がおき、その結果心臓に十分な血液が供給できなくなると発症します。具体的には心臓発作や不安定狭心症(胸痛)などで米国では毎年150万人以上、ヨーロッパでは80万人以上、日本でも10万人以上がACSを患っています。



ACSの発症機序

ACSの発症機序には血小板が大きく関与していると言えます。



エフィエントは、その血小板同士が凝集するのを阻害する薬剤です。血小板凝集を阻害することにより、現在の標準治療薬に比べてACS患者の「心血管死」、「非致死性心臓発作」、「非致死性脳卒中」といったイベント発症を減少させることが証明されています。

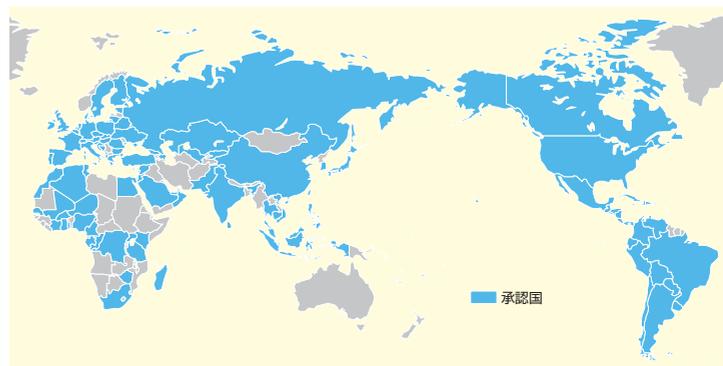
ズームアップ②

早期治療効果の向上と耐性化抑制を目指して ～合成抗菌剤「クラビット高用量(500mg)」の承認～

世界中の医療現場で利用されるクラビット

「クラビット」は、1993年の日本での発売以来、120か国以上で承認・販売され、これまでに世界で延べ約6億人以上の患者さんに処方されている感染症治療のグローバルスタンダードな抗菌剤です。広く処方されている理由は、32菌種・43適応症に対応できる幅広さに加え、強い抗菌活性と高い安全性にあります。発売後、長年にわたる情報提供活動を通して、多くの医師から大きな信頼を得てきました。

クラビット(レボフロキサシン)の海外における承認国(2008年3月末現在)



急増する耐性菌の問題

近年、感染症治療において世界的に耐性菌が急増し、抗菌剤の選択肢が狭まりつつあります。新しいタイプの抗菌剤の開発が困難な現状では、これまで使われている抗菌剤をいかに効果的に使用していくかが重要な課題となっており、当社は抗菌剤市場のマーケットリーダーとしての責務を果たすべく、産・官・学の連携によりこの問題に取り組んできました。その結果、抗菌剤の殺菌作用は血中濃度が高くなるほど強い殺菌力を発揮するだけでなく、耐性菌の発生を防ぐ観点からも極めて重要であることが解明されました。

クラビットは、日本以外での国、地域では高用量(500mg)の1日1回投与が標準となっています。これまで当社が日本で販売しているクラビットは100mgの1日3回が標準的な投与方法だったため、2007年11月に高用量投与の承認申請を行い、2009年4月に販売承認を取得しました。

今後も当社は、科学的根拠に基づいた治療効果の向上及び耐性化抑制を目指し、日本でも適正な用法・用量への見直しを行っていきます。

ズームアップ③

外用消炎鎮痛薬「パテックス® うすびたシップ」発売 ～日本最薄*で患部にぴたっとアプローチ～

ロングセラー「パテックス®」の新商品

ヘルスケア事業子会社の第一三共ヘルスケアより、OTC医薬品パップ剤最薄*・最軽量の「パテックス®うすびたシップ」が2009年4月10日に新発売されました。

「パテックス®」はOTC医薬品パップ剤のパイオニアとして、発売以来43年間、肩こりや腰痛・筋肉痛に悩む多くの方に親しまれております。

今回発売した「パテックス®うすびたシップ」は、独自の製剤技術により薄さ0.9mmとOTC医薬品パップ剤では最薄を実現し、シップ自体のごわつきも軽減されています。



「パテックス® うすびたシップ」発売



発売に伴い、プロゴルファー石川遼選手を起用したテレビCMを4月25日より全国で放映開始し、ゴルフ場を舞台に、石川プロのキャラクターが持つ明るさと強いインパクトで新商品の魅力をお伝えしています。

ゴルフの芝目を読むかのようにしっかりチェックした先にあるのは「うすびたシップ」。その薄さ0.9mmは日本最薄。ゴルフもシップもミリ単位の世界にきています。

石川プロも注目の「うすびたシップ」。みなさんの肩こり・腰痛などにも、ぜひぴたっとアプローチしていただきたい商品です。

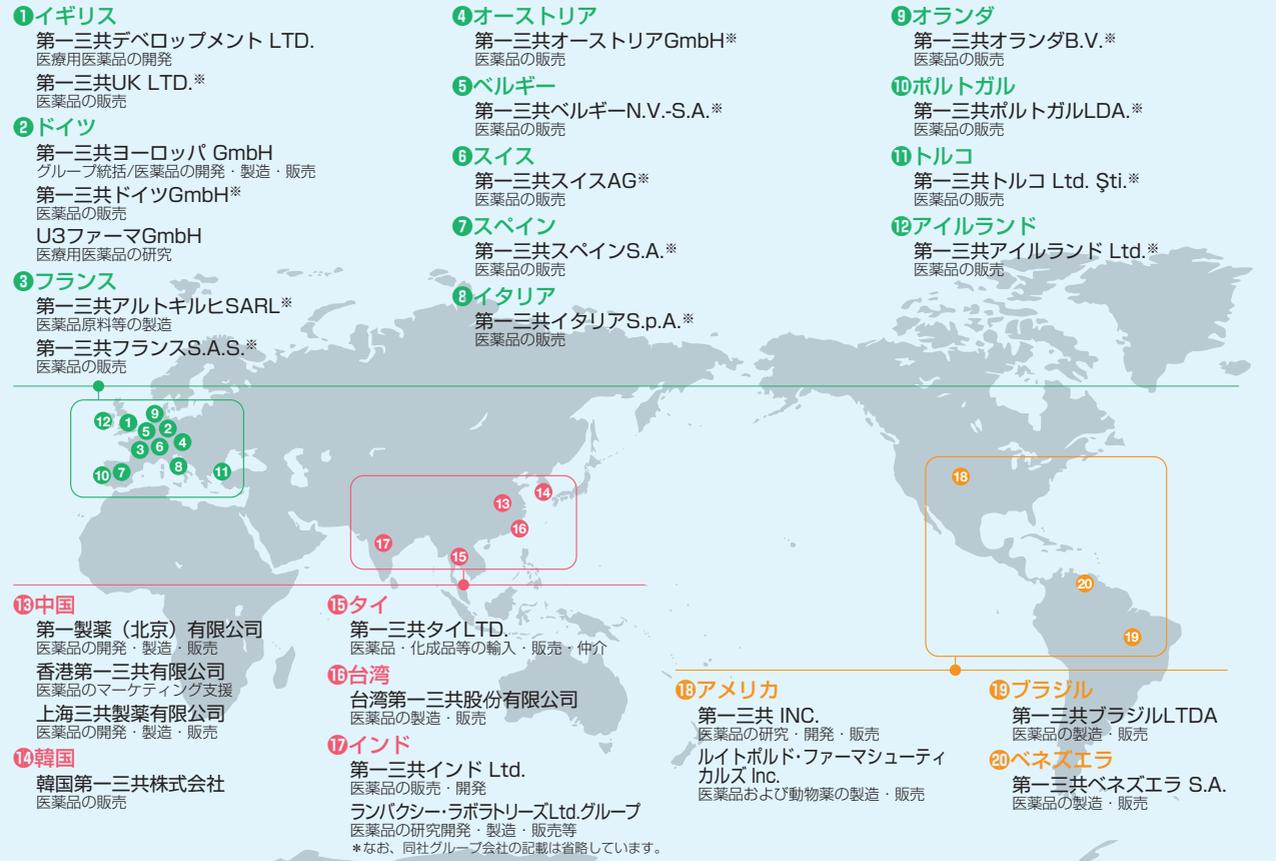
*OTC医薬品パップ剤(サイズ10cm×14cm)として

企業インフォメーション

事業所

本 社：東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号
 主要な国内事業拠点(第一三共グループ)
 支 店：札幌、東北(宮城県)、東京、千葉、埼玉、横浜、
 北関東(東京都)、甲信越(東京都)、東海(愛知県)、
 京都、北陸(石川県)、大阪、神戸、中国(広島県)、
 四国(香川県)、九州(福岡県)
 ※上記の他、全国主要都市に営業所を設けております。
 研究所：品川(東京都)、葛西(東京都)、平塚(神奈川県)、
 袋井(静岡県)、群馬、大阪
 工 場：秋田、小名浜(福島県)、平塚(神奈川県)、
 小田原(神奈川県)、静岡、大阪、高槻(大阪府)

海外グループ企業



※第一三共ヨーロッパ GmbH グループ

主要な国内グループ会社

会社名	主要な事業内容
第一三共プロファーマ株式会社	医薬品の製造
第一三共RDアソシエ株式会社	グループの研究開発サポート業務
第一三共ビジネスアソシエ株式会社	グループのビジネスサポート業務
第一三共ハピネス株式会社	グループのビジネスサポート業務
第一三共ロジスティクス株式会社	物流及び関連業務
第一三共ケミカルファーマ株式会社	医薬品の製造
第一三共ヘルスケア株式会社	ヘルスケア品の開発・製造・販売
アスピオファーマ株式会社	医薬品の研究開発・製造・販売

商号

第一三共株式会社
 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)

資本金

500億円

事業内容

医療用医薬品の研究開発、製造、販売など

従業員数

約28,900名(第一三共グループ)

役員(2009年6月26日現在)

代表取締役会長	森田 清
代表取締役社長	庄田 隆
取締役	高田 龍三
取締役	松田 等 ^{ひとし}
取締役	采 孟 ^{つとむ}
取締役	荻田 健 ^{たけし}
社外取締役	仁平 罔雄
社外取締役	西川 善文
社外取締役	矢部丈太郎
社外取締役	沖本 隆史
常勤監査役	高柳 輝夫
常勤監査役	永田 光
社外監査役	島田 馨
社外監査役	樋口 公啓 ^{こうけい}

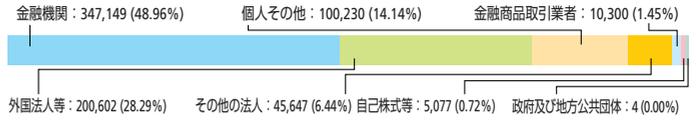
株式の状況(2009年3月31日現在)

発行可能株式総数	2,800,000,000株
発行済株式の総数	709,011,343株 (自己株式5,074,868株を含む)
株主数	84,776名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	56,550	7.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	47,587	6.71
日本生命保険相互会社	40,439	5.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	36,332	5.12
ザチェスマンハットンバンクNAロンドンSLオムニバスアカウント	20,724	2.92
株式会社三井住友銀行	13,413	1.89
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	12,465	1.76
東京海上日動火災保険株式会社	9,328	1.32
株式会社みずほコーポレート銀行	8,591	1.21
みずほ信託銀行株式会社(退職給付信託みずほコーポレート銀行口)	8,497	1.20
合 計	253,930	35.81

所有株式数別分布(千株)



株価の推移(月足)

